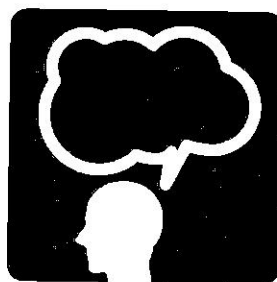


経営(継業)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⑦8

心地乾浄

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

なぜ、挨拶をするの?

「なぜ、挨拶をするの?」
そう問われたら、どのように答えられるのか。
答えに詰まってしまうという人が、決して少なくはない。

挨拶の使い方を説明する人もいるが、次の6つに集約できる。

①人に会ったときや別れるときなどに取り交わす礼になつた動作や言葉のことで、「挨拶を交わす」「時候の挨拶」という使い方。

②会合の席や集会で、改まって祝意や謝意などを述べることや、その言葉のことで、「来賓が挨拶する」という使い方。

③相手に対して敬意や謝意などを表すことや、その動作や言葉のことで、「転勤の挨拶」「なんの挨拶もなし」という使い方。

④「御挨拶」の形で、相手の非礼な言葉や態度を皮肉っている言葉のことで、「これは御挨拶だね」という使い方。

⑤争い事のなかに立って仲裁することや、その人のことで、「挨拶は時の氏神」という使い方。

⑥やくざや不良仲間などで、仕返しをいう言葉のことで、「挨拶に来た」と

いう使い方。

知識を深めるには、大事な解説であるといえる。

だが、子どもにも納得のいく答えを導くなら、「喧嘩をしてないから、喧嘩をしたくないから……挨拶をする」のである。

喧嘩をしていたら、たとえ親子、夫婦、兄弟姉妹の仲でさえ、挨拶は途絶えてしまう。

「職場(家庭)で挨拶が少ない」のは、「喧嘩の絶えない職場(家庭)です」と言っているのと同じである。と理解すれば、明日から職場(家庭)の挨拶も変わるはずだ。

心を素直にして学ぶこと

いくら学ぼうとも、ひねくれた心や曲がった心のままでは、箴言でさえ、自分の私利を求め都合の良い学びにしかならない。

それは、盗人に盗人としての知恵をつけさせるものでしかない。

心を素直にして学ぶこと。

『菜根譚』の一節にある「心地乾浄にして、方めて書を読み古えを学ぶべし。然らずば、一の善行を見ては、窃みて以て私を済し、一の善言を聞きては、仮りて以て短を覆う。是れ又、寇に兵を藉して、

盗に糧を齎すなり」を意識してみた。

昨年、ある法人の開設前研修をお手伝いした際、全職員が大切にすべき事柄を、高みをめざす介護職員の職場の模範となる行動集として、挨拶など9つの視点から40項目を抽出し、模範とすべき価値観の共有化を促した。

たとえば、勤怠関係(遅刻、早退、欠勤)に関しては、正直に直属上司に報告すること。お互いに安心感ある職場をつくるためにも、勤怠は事前連絡を基本とすること。そのうえで、遅刻、早退、欠勤した人は、当日または翌日には、「ご迷惑をおかけしました」など、謝罪の気持ちを表す言葉を職場の皆さんに一声かけること。

では、「誰かに迷惑をかけたのか?」と問えば、多くの人は「同僚」と答え、事業所や上司なども登場する。

だが、なかなか出てこないのが利用者さんである。問われた人の素養かもしれないが、それを修養させるのが雇用者側の資質である。

自ら心を素直にして学ぶこと、ふだんから心がけたい。